

ばしなからなき御かけにもおぼしめさん事おそろしうつゝましうおぼさるゝに、そのゝち御  
文まきりにて参り給へ〜とあれど、いかでかはおもひのまゝにはいでたち給はん、いかにな  
ど覺しみだるゝ程に、おほんはらからの君達に、うへまのびて此事をのたまはせて、それ参らせ  
よとおほせられければ、かゝることのありけるを、みやのけしきにもいださで、としごろおほし  
ましけることゝおぼす、なにゝつけてもいとかなしう思いで聞え給、さてかしこまりてまかで  
給て、はやうまゐりたまへなと聞え給へば、あべい事にもあらずおぼしたれば、いまはじめたる  
御事にもあらざるをなと、はづかしげに聞え給て、この君たち同じ心にそゝのかし、さるべき  
御さまにきこえ給ふ、うちよりはくらづかさにおほせられて、さるべきさまのこまかなる事ど  
も有べし、さはとていでたちまゐり給を、御はらからの君たち、さすがにいかにぞやうちおもひ  
給へる御けしきどもゝ、すゝろはしくおぼさるべし、さて参り給へり、登花殿にて御つばねま  
る、それよりとして御とのゐしきりて、こと御かた〜あへてたちいで給はず、故宮<sup>子</sup>○安の女房、  
みやたちの御めのとなどやすからぬことにおもへり、かゝる事のいつしかとなる事、たゝいま  
かくはおはしませすべき事はなと、ことしものろひなとしたまひつらんやうにきこえなすも、  
いと〜かたはらいたし、御かた〜には宮の御心の哀なりし事をこひまのびきこえ給ふに、  
かゝることさへあれば、いと心つきなきことにすげなくそしりそねみやすからぬことにきこ  
え給、まゐり給てのちすべてよるひるふしおきむつれさせ給ひて、よのまつりごとをまらせ給  
はぬさまなれば、只いまのそしりぐさにはこの御事ぞありける、わたりなかりしおり、あやにく  
なりしにやどおぼされつる御心ざし、いましもいとまさりていみじう思聞えさせ給てのあ  
まりには、人のこなぞうみ給はざらましかば、きさきにもすすゑてましとおぼしめしの給はせて、  
内侍のかみになさせ給つ、